

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽東 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語 73人 算数 73人 理科 73人

第5学年 国語 85人 算数 85人 理科 87人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

6

- ・県、市、学校の各教科における領域別、観点別の平均正答率
- ・各教科における今後の指導の工夫と改善
- ・児童質問紙調査の傾向と今後の指導上の工夫

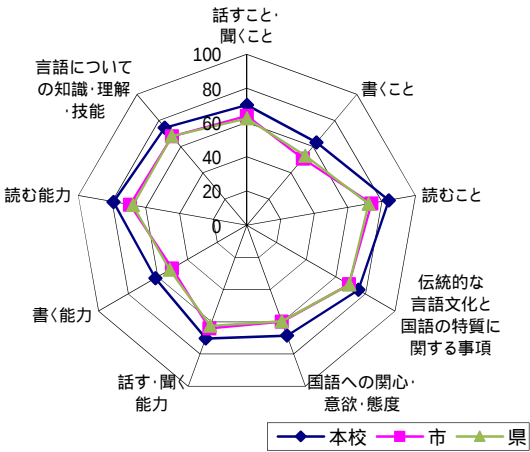
以上につきまして学校HPに掲載しております。
また、右のQRコードよりご覧いただけます。



宇都宮市立陽東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	70.3	64.0	62.5
	書くこと	63.2	50.9	53.1
	読むこと	84.2	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.3	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	68.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	70.3	64.0	62.5
	書く能力	61.7	50.4	52.0
	読む能力	79.1	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	74.6	67.9	68.2



指導の工夫と改善

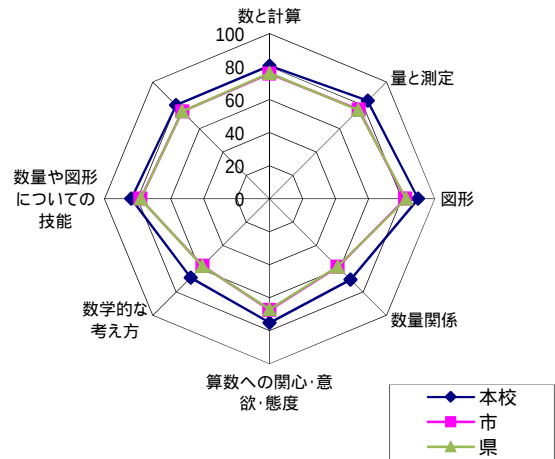
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○ 話し方の工夫に注意して聞きたったり、話題に沿った意見と理由を考えて話すことがよくできる。	・ 今後も、国語の学習に限らず、学校生活の中での話し合い活動を充実させ、話し合いの仕方や意見の述べ方等をさらに身に付けさせていく。
書くこと	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ● 条件に合わせて文章を書くことの正答率が、全体的に低い。	・ 自分の考えを、指定された文字数で表現させる活動を日常的に取り入れていく。 ・ 書き方のパターンやルールを反復練習で身に付けさせる。
読むこと	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている ● 問題文をきちんと理解していないことが原因であると考えられる無回答がある。	・ 読書の習慣が身に付いている児童が多いが、説明文等において、話の内容を要約することに関してはキーワードに目を向けて考える力がついていないとは言えないので、今後も授業において意識して取り組んでいく。 ・ 問題文や問題を十分に読み取れるよう、日常的な授業の中でもいろいろな長文に触れる機会を増やす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ● 漢字によっては、読み書きの正答率が県の平均を下回っているものがある。	・ 間違えやすい漢字の読み書きを把握し、日常的にくり返し使用することで、定着できるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第 4 学年【算数】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.5	75.8	76.1
	量と測定	84.0	76.5	76.0
	図形	90.0	82.1	82.7
	数量関係	69.3	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	75.1	67.4	67.0
	数学的な考え方	67.6	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	83.8	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	80.2	74.8	74.9



指導の工夫と改善

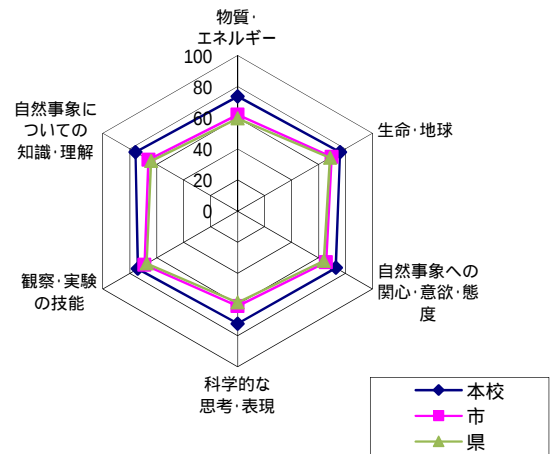
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている。全体的に計算する力が高い。 ● 3けた + 4けたによる、繰り返し繰り上がりのあるたし算の問題について、平均正答率が3.5ポイント下回っている。	・ドリルを繰り返したり、プリントなどで補充したりすることで、さらに正確に問題を解く力をつける。 ・かけ算のひっ算に出てくる数の意味を十分に理解できず、誤答した児童が複数いたので、式が表わしている数について、言葉や図を使って記述したり、考えや説明を聞いたりする学び合いの場を工夫していく。
量と測定	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ● はかりの目盛りの読み方について、平均正答率が県平均より0.3ポイント下回っている。	・正答率が高い集団と低い集団とに二極化している傾向にあるので、児童の到達状況に合わせた習熟度別指導を充実させ、確かな学力の定着をめざす。 ・生活と結びつけて、距離や長さ、重さを意識する場面を多く取り入れて距離や長さ、重さの単位のイメージをもたせ、理解させていきたい。
図形	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている。	・円や球の直径や半径など、基本的な事項にさかのぼった個別指導を充実させ、基礎学力を定着させる。また、それを使って考えるような応用問題に慣れさせる。
数量関係	○ 平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ● □を使った文章問題を表す図の構造の問題については、できる・できないが二極化している。	・いろいろな場面で数直線や図を使って表すことに慣れさせる。 ・今後も繰り返しプリントでの復習や計算ドリル等に取り組みさせることで、力を定着させていきたい。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.6	61.9	59.4
	生命・地球	75.9	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	72.8	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	72.2	61.0	58.8
	観察・実験の技能	74.0	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	75.7	66.1	64.2



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○ 全ての問題において、どの正答率も県の平均を上回っている。 ○ 平均正答率は県・市の平均を10ポイント以上も上回っている。 ○ 実験を通して理解したことがきちんと身に付いている。 ● 電気についての問題の正答率は平均して6割程度で、他の内容と比較して、電気に関する理解度は低い。	・ 学習したことが実際にどう社会で生かされているのか、自分たちの生活と結び付けて考えさせることで、さらに理解を深めていく。
生命・地球	○ 正答率は県・市の平均を上回っている。 ○ 基礎的な知識は十分に身に付いている。 ○ 実験や観察で体験した学びが身に付いている。 ● 観察カードからアブラナとタンポポの違いを読み取る問題の正答率だけが唯一県の平均を下回った。資料の読み取り等、読解力の向上が課題と言える。	・ 今後も実験や観察等の体験的な学習を充実させていく。 ・ 表やグラフから特徴を読み取る力を身に付けさせるため、実験・観察後の考察の時間を十分に確保していく必要がある。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年 児童質問紙調査

傾向と今後の指導上の工夫

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

○ 学習に対する取組が意欲的である。

特に「家で学校の予習をしている」は県の平均より10.6ポイント高く、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は市や県の平均より9.2ポイント高かった。

また、「勉強していて、おもしろい、楽しい」「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じる」という項目は、県の平均より10ポイント以上高く、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の項目は6.4ポイント高かった。「学習に対して自ら進んで取り組んでいる」の項目も県の平均より9.5ポイント高かった。

○ 自己肯定感が高く、「先生は学習のことについてほめてくれる」の項目は14.1ポイント、「自分はクラスの人役に立っていると思う」の項目は10.9ポイント県の平均より高い。

○ 読書量が多く、新聞も多く読んでいる。読書時間20分以上が県平均より8ポイント高く、30分以上までの合計でも県平均を上回る。読書量は1か月に11冊以上が県平均より21.7ポイントも高い。新聞も「ほぼ毎日読んでいる」が5.5ポイント、月に1～3回程度読んでいるの合計でも県平均を11.8ポイント上回っていた。

○ 話し合い活動に関しても肯定的な回答が多い。

「グループなどでの話し合いに進んで参加している」は市の平均より10.7ポイント高く、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は県の平均より9.5ポイント高い。

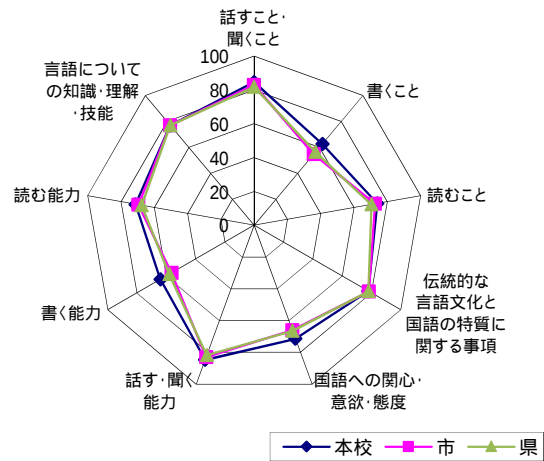
● ノートの使い方についての項目に低いものが見られた。

「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の項目が低く、授業で自分の考えを書いたり理由を書いたりすることや解き方や考え方が分かるように書く項目が低くなっており、授業の際には意図的に書くことについて指導していく必要がある。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.7	82.9	81.8
	書くこと	62.8	54.8	56.5
	読むこと	73.9	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.9	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	71.4	66.0	66.4
	話す・聞く能力	84.7	82.9	81.8
	書く能力	64.0	56.3	57.9
	読む能力	71.2	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	77.2	77.2	77.1



指導の工夫と改善

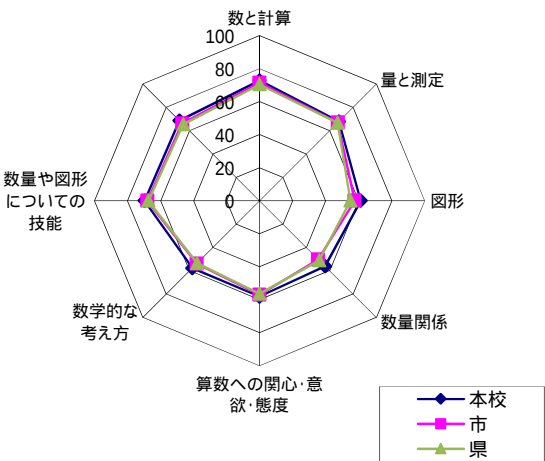
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○ 正答率は県・市を上回っている。 ● 司会者の役割として共通点を見つけて、まとめる問題が苦手傾向にある。	・話し合いの活動を増やし、話し合いの内容で同じ意見や異なる意見を整理し、まとめる機会を設ける。
書くこと	○ 作文などの文章を書く問題において、県の正答率を5ポイント以上上回っている。	・引き続き授業中や日記などで、文章を書く活動を行う。
読むこと	○ 特に物語の読み取りがよくできている。 ● 説明文の段落のまとまりを理解して、文章の内容を読み取ることが苦手傾向にある。	・朝の読書や図書室の利用をこれからも生かして、読書活動を継続する。 ・文章全体の構成がどのようになっているかを整理しながら文章を読み進めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● 漢字の書きが苦手傾向にある。 ● 文法において指示語・修飾語が苦手傾向にある。 ● 無回答率16.5ポイントと高い。同じ人が答えてないことが予想され、二極化が心配。	・常に自分の手元に辞書を置いておく。辞書を購入し、国語辞典や漢字辞典をいつでも引けるような環境作りを進めていく。合わせて、辞典の使い方を再確認する。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.8	71.5	70.4
	量と測定	68.0	67.0	66.9
	図形	61.2	57.6	55.0
	数量関係	56.1	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	58.0	57.0	56.3
	数学的な考え方	57.7	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	69.7	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	68.6	66.3	65.4



指導の工夫と改善

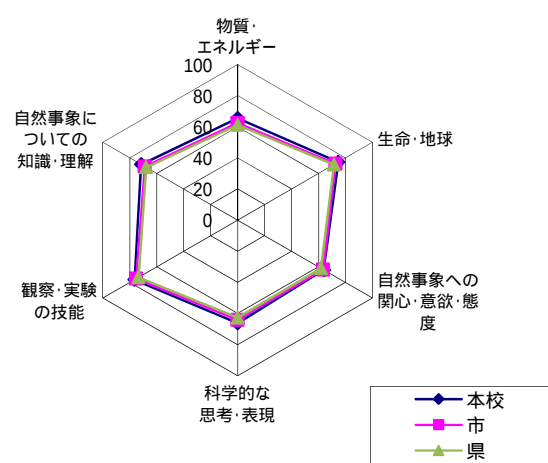
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ ほとんどの問題で県や市よりも正答率が高い。 ● 3桁÷2桁のあまりのある割り算では、およその数を見立て、計算することが苦手で正答率がやや低かった。	・個別指導を充実させ、基礎学力を定着させる。 ・反復学習の徹底を図り、基礎的な計算力を身に付ける。 ・類題や発展問題を充実させ、算数的な思考力を高める。
量と測定	○ ほとんどの問題で県や市よりも正答率はやや高い。 ● 面積の問題「身近にあるもののおよその面積」では、正答率が30.6ポイントで、県や市の正答率よりも、約8ポイント低い。	・具体物を操作する活動を多く取り入れ、体験的な学習を積極的に行う。 ・およその数を予想したり、計算したりすることができるよう、見通しを立ててから考える活動を多く取り入れる。
図形	○ ほとんどの問題で県や市よりも正答率が高い。 ○ 対角線の性質や図形における垂直の関係性について理解ができています。また、平行四辺形の特徴を用いて記述で書く問題は7ポイントほど上回っている。	・普段の授業から、ノートやワークシートを活用して、正確な作図や図形の性質などの知識の定着を図る。
数量関係	○ ほとんどの問題で県や市よりも正答率はやや高い。 ○ 二次元表の読み方は正答率が高く、市の正答率よりも8.6ポイント高い。 ● 折れ線グラフや棒グラフの読み取りはできているが、それを根拠に理由を説明する問題では、無回答の児童が多く、他の問題に比べ正答率が低かった。	・児童の到達状況に合わせた習熟度指導や個別指導を充実させ、確かな学力の定着を目指す。 ・グラフや表の読み取りだけでなく、活用する問題を充実させ、応用力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.4	62.4	61.1
	生命・地球	74.6	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.0	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	66.1	64.1	62.6
	観察・実験の技能	76.5	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	71.5	68.8	67.8



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○ 正答率は県・市を上回っている。 ○ 水の状態変化や空気のあたためり方、豆電球が光る仕組みについての正答率が県・市を10ポイント程度上回っている。 ○ 基礎的な知識を問う問題についてはよく理解出来ている。 ● 物のあたためり方について、県・市の正答率より3ポイント程度高いが、正答率が34.5ポイントと低い。	・実験や観察を通して、ノートやワークシートを活用し、予想したことや結果について文章で書くことで理解の定着を図る。 ・学習したことを生活の場面と結び付けて考えさせ、理解を深める。
生命・地球	○ 正答率は県・市を2ポイント上回っている。 ○ 動物のようすと植物のようすについては、県・市を8ポイント以上上回っている。 ● 月と星の方位を推測する問題については、県・市を5ポイント以上下回っている。	・実験や観察が困難な内容については、具体物や映像教材を活用し、理解を深める。 ・身の回りに存在する多くの自然的現象、科学的事象について学校や家庭など普段の生活の中で話題にあげたり、身近なものとして捉えたりできるようにする。 ・特に授業以外の場面で家庭の協力を要する天体の観測については、先述の映像資料等も含め、課題に対する振り返りや体験の工夫が必要であろう。

傾向と今後の指導上の工夫

○「1か月に、何冊くらい本を読みますか。」という項目では、11冊以上読んでいる児童が8ポイント市の平均を上回っている。このことから、読書に関する本校の意識の高さがうかがえる。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」という項目では12ポイント、「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る。」という項目では3.6ポイント市を上回っていることから、学習に対する意欲は高いと思われる。

「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という項目では、はいと答えた児童が市町村の平均を6.2ポイント上回っている。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」という項目では、はいと答えた児童が市町村の平均を12.2ポイント上回っている。このことから、話し合いや自分の意見を発表することが本校の児童は得意であることがうかがえる。

●決まりを守ることや、思いやりの心をもって他人に接するなど、自分以外とのかかわりがあるそかになりがちである。

学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

学校全体で、重点を置いて取り組んでいること		
重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・国語科における「書く」活動を含む言語活動の実践 ・ペアやグループでの対話を通じた思いの共有	・研究授業や研修を通した「書く」活動を含む言語活動の研究、実践。 ・様々な学習におけるペア学習やグループ学習での学び合いの場の設定。	・5年生において、「書くこと」の無回答率がやや目立った。 ・「グループなどでの話し合いに進んで参加している」は4年生で10.7ポイント、5年生で6.2ポイント、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は9.5ポイント、5年生では12.2ポイント市の平均より高く、取組みの成果が表れているといえる。

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・漢字の読み書きの正答率が平均を下回るものがあつた。 ・算数や理科においても文章で説明する問題で無回答の児童が多い問題がある。	・基礎基本の徹底。 ・個別指導の充実。 ・自分の考えを文章で書き表す学習の実践。	・校内において効果的な指導の在り方について、研修を行ったり、情報の共有を図ったりして、授業の工夫や授業改善を行う。 ・「書く」ことについて、さらに研究を深め、自らの考えや思いを書いて表現できる児童の育成を図る。